

# スペシャルすまいる

No. 53  
2017 October

NIKKO City Council of  
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



ワークキャンプ2017参加者

## ワークキャンプ2017を開催しました！

今回で28回目を迎えるワークキャンプ。平成29年7月23日～8月9日にボランティア活動を体験することを通じて、たくさんの人たちとの出会い、自分たちの住んでいる地域には様々な人たちが支えあいながら生きている、そんな“共に生きる社会”を身近に感じ、人を大切にする気持ちを育むことを目的として実施しました。

○ご協力いただいた体験先一覧(敬称略)

夢の森・夢の里、いのくら児童クラブ、おおさわふれあい活動、毎日クリスマス、国際自然大学校 日光霧降校

## CONTENTS

- 小学生ふくし体験教室 ..... 2ページ
- 青少年ボランティアリーダー養成研修 ..... 2ページ
- CSR活動報告 ..... 3ページ
- ふくまち地区別活動報告 ..... 4～5ページ
- 共同募金のお願い ..... 6ページ
- 日赤報告 ..... 6ページ
- 寄付・義援金報告 ..... 6ページ
- 平成28年度事業報告・決算 ..... 7ページ
- 平成29年度事業計画・予算 ..... 7ページ
- 「支えあい」自治会活動久次良町シリーズ① ..... 8ページ



この広報誌の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

# 小学生ふくし体験教室を開催しました!



「小学生ふくし体験教室」は、子どもたちが障がい者との交流や地域防災などの「ふくし」体験を通して、福祉を身近に感じ、助け合う社会づくりや地域福祉活動に参加することの大切さを深めてもらうことを目的として、毎年開催しています。

## 第1回

平成29年7月29日(土)

1日目は、盲導犬ユーザーの大久保 扶美子さんと盲導犬・オージ、車いすユーザーの奥畑 直人さんを講師に迎え、アイマスク体験や料理教室、車いす体験などを行いました。目が見えなくても何でもこなせる大久保さん、車いすを自由自在に乗り回す奥畑さんの姿に、参加者の皆さんはビックリしていた様子でした。



## 参加者の感想 (一部抜粋)

- ☑大久保さんは目が見えないのに上手に包丁でパンを切っていて、すごいと思った。
- ☑(車いす体験で)奥畑さんがキレがよくてカッコよかったです。
- ☑これから大久保さん、奥畑さんに町であった時には、ぜひ声をかけたいと思いました。
- ☑災害に関しての知識を得ることで、「もしも」のときに備える事ができました。

## 第2回

平成29年8月5日(土)

2日目のテーマは「防災」。防災に関するゲームをしたり、災害時の避難所を想定した非常食体験をしたりと、みんなで楽しく「防災」を学びました。最後に、二日間の活動で体験したことや学んだこと、感想などを「ふくし新聞」にまとめ、みんなで共有しました。感想を細かく書いてくれたり、活動の様子を絵に描いてくれたりして、ユニークな新聞が出来上がりました♪



## 最後はみんなで



はい!チーズ!

# 青少年ボランティアリーダー養成研修開催!!

去る6月11日(日)から8月17日(木)までの約2ヶ月間にわたり、青少年ボランティアリーダー養成研修事業を開催しました。この研修も今年で15回目になりました。市内の高校生7名が参加し、全5回の日程で、時には悩み、時に笑いありと充実した研修になりました。

また、実践研修として、期間中に開催された「小学生ふくし体験教室」に参加し、ボランティアリーダーとして活躍しました。

この研修を通して、参加者からは「えっ!私にもこんなことができるんだ!」「自分は人見知りだと思っていたけど、研修の中でコミュニケーション力がついた!」など、自分自身の成長や知らない自分を発見できた様子でした。





好きです♥笑顔の日光

活動報告

# スマイル日光プロジェクト



日光市へ寄付

スマイル日光プロジェクトとは…

日光市内でCSR（企業の社会的責任）を推進する企業集団の寄付つき商品販売を通じた社会貢献プロジェクトです。それぞれの企業において特定商品の売り上げに応じた寄付金を社会貢献活動のために寄付します。

第3期(2016年4月～2017年3月)活動報告

寄付金合計 **¥641,521-**

(2016年3月1日～2017年2月29日までの売り上げに応じた寄付額)

上記寄付金を以下の団体へ寄付いたしました。

- 1) 高校生ボランティアネットワーク「緑人(えんぴーと)プロジェクト」へ¥150,000- (日光市社会福祉協議会へ)
- 2) 環境保全(水質保全)への寄付金として ¥100,000- (日光市へ)
- 3) 子どもの貧困問題への取り組みに対する寄付金として ¥100,000- (NPO法人だいじょうぶへ)
- 4) 障がい者支援活動に対する寄付金として ¥100,000- (障がい者就労支援共同受注システムへ)
- 5) 高齢者福祉に対して 約¥100,000- (ほっとウェブへ看板寄贈予定)
- 6) 災害義援金(九州北部豪雨災害)として ¥50,000- (日光市へ)

なお、活動経費を除いた残金は、次期へと繰り越します。



社会福祉協議会へ寄付



プロボノ活動



花市でのブース出店



CSR研修会

スマイル日光プロジェクトでは、寄付活動のほかプロボノ活動、CSR研修会、イベントへのブース出店、寄付先団体との共同活動などを行っています。

詳細はホームページをご覧ください。  
<https://smilenikko.jimdo.com>

## \*安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり実現のために

### 『にっこう福祉のまちづくり推進委員会』(通称:ふくまち委員会) についてご紹介します。

#### 「ふくまち委員会」とは…

日光市社会福祉協議会では、日光市地域福祉活動計画(※)を推進していくために、また、福祉活動の課題解決に向け協議・検討を行うために、「**にっこう福祉のまちづくり推進委員会**」(通称:ふくまち委員会)を市内13地区に分けて設置しています。

13地区で147名の方が、ふくまち委員として、私たちの身の回りに起こっている生活上の問題を明確にし、自分たちのできる解決方法を考えながら、「**自分の地域で幸せに安心して、そして豊かに暮らすことのできる「福祉のまちづくり」**」実現のための話し合いを行っています。

ふくまち委員会の各地区の取組は、本誌でご紹介していきますのでご覧下さい。

※地域福祉活動計画とは、住んでいる方が中心となって、地域を良くするために、自分たちで出来ること(まちづくりの目標と取組の方向性)をまとめた計画です。

#### ふくまち委員会第3回全体会議を開催しました

去る7月27日(木曜日)に、ふくまち委員会の活動が充実するよう、また各地区で抱える課題等について情報を共有し意見交換を行うため、13地区全ての委員が一堂に会する「全体会議」を開催しました。

その時行われた研修会では、同志社大学社会学部 永田准教授より「地域福祉の動向とふくまち委員会の果たすべき役割」についてご講義いただきました。



「我が事・丸ごと」地域共生社会」という国が目指す新しい福祉の方向性やこれからやるべきことを学びました。

**ふくまち委員会では、身近な地域での助け合いを市民の皆様と一緒に進め、誰もが役割や生きがいを持って自分らしく暮らせる地域づくりを進めていきます。**

# 4地区ふくまち委員会（日光・小

## 足尾地区 人に優しい明るいまちをめざして

人口減少、少子高齢化が急速に進行している足尾地区では、交流の場の喪失や買い物困難などの“困りごと”が年々増加しています。その解決のために、住んでいる方達を中心となり、困りごとを解決するために様々な活動を行っています。ふくまち委員会では、構成する各委員の強みを活かし、自治会や市民団体がやっている活動を手助けし、まちぐるみで福祉のまちづくりに努めています。

ここで具体例を紹介します。今年の4月から毎週1回、地域交流の活性化の取り組みとして、「貯筋アップあかがね」



貯筋アップあかがねの様子

を、「けんこう愛好会」という市民団体が主体となって実施しています。これは日光地区清滝の活動をモデルに企画したもので、健康をテーマとしたサロン活動です。参加された方からは、これがきっかけとなり、自然と集まることが増えたとの声をいただいております。この事業の実施にあたり、ふくまち委員会では、自治会長会、民児協、商工会などで培った知識・経験を活かして、活動内容のアドバイスや周知の協力などの側面的支援を行いました。

福祉のまちづくり実践には、様々な人の連携が必要になってきます。今後も足尾地区ふくまち委員会は、連携の要として、活動していきたいと思えます。

## 小来川地区 こころのふるさと小来川をめざして ～あったかいんだから～

小来川地区では、少子・高齢化に伴う交流事業への参加者減少や機会の減少、活動の担い手不足、といった“困りごと”が増加しています。そのような中、自治会や民生委員児童委員協議会、長寿会、ボランティア、地域おこし協力隊などが集まる「ふくまち委員会」にて課題解決に向けた取り組みについて話し合いを行いながら、具体的な取り組みを進めています。



納涼盆踊り大会の様子

特に、「地域交流の場」と「若者の地域活動参加支援」について課題解決に向けた協議を行ってきました。

協議の中で、世代間交流の活性化については、若者の協力を得ながら、新たな視点で物事を考える必要性があることから、地区内の若者十数名が集まり、地区の交流事業である“盆踊り実行委員会”を設立する運びとなりました。設立後は、交流事業の活性化について自治会協議会と実行委員会とで議論を重ね、事業を成功させるなど、皆で話し合いを続けながら世代間交流の活性化を進めています。

今後は、高齢者の生活支援等についても協議を重ねながら、あったかいこころのふるさとづくりについて、検討を行っていきます。

# 来川・中宮祠・足尾)の経過報告

## 日光地区 につこり日光! ～笑顔と愛あるまちづくりをめざして～

日光地区では、地域交流の減少、独居高齢者の増加による孤独死など地域における“困りごと”が増加しています。そういった課題等の解決に向けて、自治会、民生委員児童委員協議会、NPO法人、社会福祉法人、高校生など各機関の委員が集まる「ふくまち委員会」にて、福祉課題解決に向けた取り組みと、高齢者の生活支援について会議を重ね、住民の方々が課題解決の為の活動が円滑に行えるよう、側面的支援を行っています。

会議を行う中で、日光地区における地域福祉活動の把握を自治会長・地区社協の協力のもと行ないました。その中で



H29年7月18日(火)に行われた「鉢巻サロン」の様子

「地域交流の場」の必要性を再認識するとともに、区内でも場所によって課題等が異なることがわかりました。そうした中、現在の日光地区ふくまち委員会では、地区全体の地域福祉推進について協議するほか、日光地区を更に細分化した、区域単位(杉並木・東町・西町・清滝)での協議を行いながら、区域内の地域課題解決に向けた検討等も行っています。さらに、「地域交流の場」については、自治会を基盤にしたサロン(交流の場)活動への助言、サポート等も進めています。例えば、7月には上鉢石町で初めてとなる「鉢巻サロン」立ち上げへの助言等を行いました。

今後も、皆が安心して暮らすことができるまちづくりを様々な方々と協力し進めていきます。

## 中宮祠地区 住む人、訪れる人が穏やかに和やかに すごせるまちづくり ～いこう(憩う・行こう)! イートコ奥日光～

中宮祠地区では、多世代交流の機会減少や、交通手段がなく地域交流行事へも参加できないなどの“困りごと”が増加しています。そのような中、自治会や民生委員児童委員協議会、地域の福祉活動者などが集まる「ふくまち委員会」にて、地域の課題解決に向けた取り組みについて話し合いを行いながら、具体的な取り組みを進めています。



H29年1月に行われた「奥日光みんなで茶話会」の様子

高齢者が増加する中、サロンのような「地域交流の場」が中宮祠地区にはない、昔は交流の機会があったが現在は少ないなど、交流を求める声があったことから、平成29年1月に「奥日光みんなで茶話会」を開催しました。内容は、奥日光で撮影された「エレキの若大将」を鑑賞し、その後、お茶やお菓子を食べながら奥日光の今昔について楽しく話しながら交流しました。参加者からは「このような場が定期的で開催されれば」などの意見があり、中宮祠での交流について皆で考えました。

今後は、この茶話会を継続していくとともに、地域交流の場づくりについて更なる検討を重ね、穏やかに和やかにすごせるまちづくりを進めていきます。

# 共同募金運動

## 赤い羽根募金 + 歳末たすけあい募金

10月1日から全国一斉に共同募金運動が始まります!!

戦後間もない1947(昭和22)年、戦後復興の一助として市民が主体となり共同募金が始まりました。その後、時代の要請にあわせて、子供の遊び場や障がい者の小規模作業所、高齢者への在宅福祉活動などさまざまな福祉に役立てられてきました。

日光市では、戸別募金、法人募金、学校募金、イベント募金など多くの募金活動を実施します。集められた募金の約70%は、日光市内の福祉育成に役立てられます。

「じぶんのまちをよくするしくみ。」の共同募金にご協力をお願いします。



# 目標額 ¥18,928,000

ご協力をお願いします。

### 社会福祉協議会への寄附報告

平成29年3月1日～平成29年8月31日

(一般寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	若林ふれあいカラオケ会平成町文化交流会一同	50,000
本所	ライオンズクラブ国際協会333-B地区	100,000
本所	杉並木カラオケ大会実行委員会	23,500
本所	連合栃木なんたい地域協議会	20,000
本所	福島一兵歌謡教室	100,000
本所	栃歌協日光支部	10,000
今市	佐藤 英捷	5,480
今市	栃木県立今市工業高等学校教職員組合	12,182
今市	スマイル日光プロジェクト	150,000
今市	日光グラウンドゴルフ協会	9,150
今市	日光グラウンドゴルフ協会	13,600
今市	小野 ヨシエ	10,000
今市	三澤 喜代子	10,000
今市	今市公民館 ふれあい教室	760
日光	古河電工日光通勤自治会	17,240
日光	日光ネスクラブ 会長 森 公子	6,058

(物品寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	品名
本所	五家 英子	車椅子(1台)

### 「北九州豪雨災害義援金」 募集のお礼と報告

8月31日  
現在

累計額 **335,825円**

お預かりした義援金は全額、日本赤十字社栃木県支部に送金をさせていただきました。(日本赤十字社を通じ被災地に配分されます。)

★義援金募集期間：平成29年7月10日～平成29年8月31日

★募金箱設置・受付窓口：

日光市役所市民課、各行政センター市民サービス係  
社会福祉協議会本所、各支所(栗山支所を除く)

北九州豪雨災害義援金 協力者名簿(敬称略、順不同) ※掲載承諾者のみ

地域	名称	金額(円)
今市	高橋 隼	50,000
今市	朝日町自治会	20,061
今市	平成町自治会	17,810
今市	スマイル日光プロジェクト	50,000

### 日赤社資(会員費・寄附金)へのご協力ありがとうございました

《社資総額は》

(8月31日現在)

# 9,809,350円

お寄せいただきました社資は、日本赤十字社に全額送金し、次のような赤十字活動に役立てられます。

- 災害救護
- 講習普及事業
- 国際救護活動
- 社会福祉事業
- 看護師養成
- 青少年席赤十字活動
- 医療事業
- 血液事業
- 赤十字ボランティア

# 平成29年度事業計画・予算

## 基本方針

近年における福祉を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、少子高齢化の急速な発展、家族や地域社会における相互扶助の機能が低下する中、公的制度では対応できない生活支援のニーズや社会的孤立、貧困などを背景とする深刻な生活課題が顕在化しており、これからの地域福祉のあり方が問われています。

こうしたニーズ・課題への対応に際しては、公的な制度に基づくサービスや支援はもとより、助け合いの理念に基づく市民の活動を通しての社会関係の維持・回復を図る取組みや、相互に支えあうコミュニティづくりが不可欠となります。

本会は、市民自身がまちづくりや地域の生活課題・福祉課題の解決に目を向け、その取り組みに主体的に参画できるよう自治体や専門機関、企業、NPO等と協働した生活支援の仕組みづくりを推進していくため、「第2期日光市地域福祉活動計画」、「社協総合推進計画」等を中心に「市民参加」による「共助」を根幹とした地域福祉・地域支援の強化を目指します。

## 予算の概要

(収入)		(支出)	
合計	(単位:円)	合計	(単位:円)
557,741,000		557,741,000	
経常経費補助金収入	206,356,000	法人運営事業	184,668,000
会費収入	14,350,000	福祉活動推進事業	26,614,000
寄附金収入	2,100,000	ボランティア活動振興事業	8,248,000
事業収入	4,150,000	福祉サービス利用援助事業	4,293,000
貸付事業収入	2,000,000	生活福祉資金貸付事業	2,537,000
受託金収入	167,886,000	社会福祉金庫貸付事業	2,017,000
負担金収入	6,530,000	共同募金配分金事業	13,258,000
障害福祉サービス等事業収入	4,252,000	退職積立事業	17,361,000
介護保険事業収入	137,996,000	日光福祉保健センター	17,752,000
その他の収入	251,000	地域包括支援センター窓口事業	6,530,000
積立資産取崩収入	5,429,000	訪問介護事業	52,266,000
前期末支払資金残高	6,441,000	通所介護事業	72,785,000
		居宅介護支援事業	43,631,000
		障害福祉サービス事業	4,199,000
		介護予防・生活支援事業	887,000
		藤原・東山地域包括支援センター	22,851,000
		日光・足尾地域包括支援センター	25,296,000
		地域支援事業	20,644,000
		足尾保健・高齢者生活福祉センター	18,888,000
		藤原福祉センター	13,016,000



# 平成28年度事業報告・決算の概要

## 事業報告

### 【新規事業】

- ・第1次日光市社協総合推進計画の推進
  - ・第2期日光市地域福祉活動計画(13地区)の推進事業
  - ・赤い羽根共同募金感謝祭開催事業
  - ・生活支援体制整備事業
  - ・第11回全国校区・小地域福祉活動サミット開催事業(体制整備)
1. 社会福祉法人として責任ある組織・管理体制の実現をめざす。
    - ①地域福祉・ボランティアに関する研究等の強化・推進
    - ②災害時等相互支援協定を締結した社協との交流活動の推進
    - 他3事業
  2. 地域の福祉力向上をめざし、徹底した市民参加による地域福祉活動の展開。
    - ①地区社会福祉協議会活動支援事業
    - ②小学生ふくし体験教室開催事業
    - ③ワークキャンプ開催事業
    - ④災害ボランティアリーダー養成事業
    - ⑤日光市社会福祉大会開催事業
    - 他24事業
  3. 地域住民の個々のニーズに応え、生活を支える活動の展開。
    - ①訪問介護事業(3事業所)
    - ②通所介護事業(4事業所)
    - 他10事業
  4. 地域における総合相談、生活支援システムづくりの推進。
    - ①無料法律相談事業
    - ②日常生活自立支援事業
    - ③法人後見事業
    - 他7事業
  5. 地域の特性や福祉ニーズに基づき、一歩先行く活動の展開。
    - ①社協モデル・ファンドレイジング事業
    - ②縁人プロジェクト事業
    - 他6事業

## 決算報告

(収入)		(支出)	
合計	(単位:円)	合計	(単位:円)
587,162,254		545,212,415	
経常経費補助金収入	196,706,310	法人運営事業	206,220,455
会費収入	13,577,100	福祉活動推進事業	24,259,910
寄附金収入	1,707,069	ボランティア活動振興事業	7,329,575
事業収入	5,653,304	福祉サービス利用援助事業	4,667,257
貸付事業収入	682,000	生活福祉資金貸付事業	2,400,884
受託金収入	165,306,331	社会福祉金庫貸付事業	685,936
負担金収入	6,257,206	共同募金配分金事業	13,388,778
障害福祉サービス等事業収入	2,492,469	退職積立事業	18,660,000
介護保険事業収入	126,463,138	日光福祉保健センター	16,631,332
受取利息配当金収入	1,068	地域包括支援センター窓口事業	6,257,206
その他の収入	779,471	訪問介護事業	44,632,089
積立資産取崩収入	13,790,000	通所介護事業	62,413,981
その他の活動による収入	1,751,280	居宅介護支援事業	40,589,432
前期末支払資金残高	51,995,508	障害福祉サービス事業	3,662,552
		介護予防・生活支援事業	427,073
		藤原・東山地域包括支援センター	20,964,066
		日光・足尾地域包括支援センター	23,999,165
		地域支援事業	18,325,891
		足尾保健・高齢者生活福祉センター	18,547,910
		藤原福祉センター	11,148,923



なじみの顔

いつもの会話

人と人がつながると

心があたたかくなります



急速に進む高齢化の波、そんな状況に直面しているからこそ、住民同士が助け合い、できることから皆で協力し、様々な取り組みを行っている久次良町自治会。

そこには住み慣れたまちで、楽しく、安心して暮らすためのヒントがたくさん詰まっているはずです。

スペシャルすまいるでは、4回シリーズで久次良町自治会の取り組みをご紹介します。



☆第1回目は…

### ちょっと親切運動 (ちょいボラ)

ゴミ出しや片付け、電球の交換など、高齢になり一人ではできないことを、同じ自治会の住民がお手伝いします。「だれかとおしゃべりしたい」そんな声にも応え、おしゃべり訪問も実施しています。

無料で手伝ってもらうのはちょっと・・・と気をつけてしまうことのないよう、費用はいずれも1回50円。利用した方からお預かりした費用は、自治会費に入れています。

特別なことではなく、ちょっとしたやさしい気持ちを持ち寄って、知恵を出し合い、あとは「やってみよう」。ここがポイントだと思います。

### インタビュー



取り組みの提案者である自治会副会長の宮地ゆみさん。

主任児童委員、学校支援ボランティア活動推進事業地域コーディネーターとしても活動されています。

きっかけは？

日光市社会福祉協議会主催の地域福祉研修会に参加したときに、講師である永田先生(同志社大学)の「高齢になると電球の交換が難しくなる」「行政に頼るばかりでなく地域で福祉を考えると」という言葉に共感し、自治会の役員にその話をしました。

「ちょっと手伝ってあげることで、いつまでも住み慣れたまちで暮らしていけるように」そんな思いを、信頼できる仲間と共有できたことが原動力になりました。

DATA

くじらまち

### 久次良町自治会

■人口	907人	■自治会加入世帯	363世帯
■組数	38組	■自治会加入率	87.9%
■高齢化率	40.8%		

(平成29年4月1日現在)



# スペシャルすまいる

No.53 2017.9.25

■編集・発行／社会福祉法人 日光市社会福祉協議会  
〒321-1261 栃木県日光市今市511-1 (日光市役所春日町庁舎内)  
TEL 0288-21-2759 / FAX 0288-21-3110  
ホームページアドレス <http://www.shakyo-nikko.or.jp>  
印刷：(有)三興社印刷所